みなと元町 TOWN NEWS タウンニュース No. 318

発　行:みなと元町タウン協議会　住　所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内　発行人:奈良山喬一　編集人:岩田照彦　電話・FAX:078−391−0831

新・神戸文化ホール移転で、神戸の音楽・舞台芸術はいずこへ①

合資会社ゼンクリエイト　**根津　昌彦**

平成31年1月10日、第4回の新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会の開催日当日の神戸新聞朝刊に、「神戸文化ホール移設　大・中ホール別々の配置案見直し」という言葉が躍っていた。

私は、この10年三宮・元町の複数のエリアのまちづくり協議会に関わってきた実績を評価いただいて、この検討委員会にまちづくり分野の学識経験者委員として参加させていただいている(恐れ多い……汗)。大倉山にある現在の神戸文化ホールには、物心ついた時から、今日まで何度も通ってきた。母親に連れられて父親が指揮する合唱団の演奏会に行ったことに始まり、小学生の時は演劇鑑賞会でミュージカルを、中学生の時は、父親の追悼演奏会も神戸文化の大ホールで行っていただいた。高校から、私自身が合唱をするようになり、大ホール・中ホールの舞台に立ったり客席で鑑賞した公演は数えきれない。

まちづくり分野の専門として委員に選んでいただいたが、神戸文化ホールのヘビーユーザーの代表として、そして大学4年生の時には、「阪神間の公共ホールの運営に関する研究」というテーマで卒業論文を書いた「ホール大好き芸人(コンサル)」として、今回は様々な角度から意見を言わせていただいている。

私が大学で卒論を書くために、いろいろな参考図書を読んだり、ホールにヒアリングに行ったりして情報収集をした頃は、全国で音楽専用・演劇専用といったある芸術を行うのに特化した公共ホールの開館ラッシュの時代であった。「多目的は無目的」なんて言葉もよく耳にした。

今回、新・文化ホール整備にあたっての問題点として、「大ホールと中ホールを移転とともに別々に設置し、利用者の往来で地域の集客効果を高めたい市側に対し、市民や市議会からは利便性の高い近接した場所での設置を求める声が噴出(先の神戸新聞の記事より)」というように指摘されている。

現状の大ホール(約2000席)、中ホール(約900席)は、1973年に竣工した額縁舞台の多目的ホールであり、音楽、演劇はもとより、各種講演会、集会など、まさに多目的に利用されてきた。利用率に占める演目の割合の話は横に置くが、中ホールは「演劇を中心とした」多目的ホールとして演劇界の巨星であった故・宇野重吉氏からも高い評価を受けてきた。

この中ホールを、当初神戸市が打ち出した構想案では、「音楽専用ホール」として大ホールとは別の場所(市役所2号館庁舎建替えビルの中)に移すというものであった。このままでは700席程度で演劇ができるホールが無くなってしまうと、演劇舞台の著名人や全国各地の劇団員らから署名を集めて、演劇関係の委員が粘り強く「中規模多目的ホール」の必要性を訴えてきた。加えて、音楽舞台芸術系の全国大会などを誘致しようとした際に、大ホール中ホールが近接しかつ一体的に運用されなければならないといった指摘も多数の委員からなされてきた。

こうした甲斐あって、第4回委員会では、大ホールが入る高層ツインタワー1期ビルに隣接する同2期ビルに新たな多目的ホール(700席程度)を設ける案に舵を切る方向で意見がまとまったのである。(4月号に続く)

■神戸文化ホールの移転計画(素案)

場所	高層ツインタワー1期ビル	高層ツインタワー2期ビル	市役所2号館新庁舎
これまでの案	大ホール(1500席以上)と区民ホール(500席程度)	計画なし	中ホールを音楽専用ホールに(700〜900席)
▼ 新たな案	大ホール(1500席以上)のみ	多目的の中ホール(700席程度、区民ホールを兼ねる)	音楽専用ホール(700〜900席)

【元町・夢街道】(222)

書店の話(20)

兵庫県書籍雑誌商組合①

岩田　照彦

熊谷久栄堂、吉岡宝文館、日東館、川瀬日進堂と、元町に四店舗がそろったのを機に、兵庫県書籍雑誌商組合を紹介しておきたい。

組合発足の機運が醸成されるのは、明治三十八(一九〇五)年のころである。先の四社は、すでに確固たる販売網を築いてはいたが、無統制な書籍販売の状況は、業界の存亡にかかわりかねない事態に直面していた。兵庫県下の中学校における教科書の割引販売問題である。

教科書の製作と販売の権利を得た書店にとって、割引販売が常態化すれば、影響は免れない。一部地方での現象とはいえ、蔓延すれば書店の死活問題になる。

当時、書籍の販売は無統制だった。個々の店が販売する雑誌や教科書は、定価はあってないような状態で、地域によっては国定教科書でさえ小間物屋で販売され、畳の上に本を並べて販売するものもあり、主力商品の添え物扱いする店もみられる状況だった、という。

もちろん書店組合の先例もなく、当時あったのは東京と大阪に、出版と問屋の組合があるに過ぎなかった。教科書の割引販売に、もっとも深い懸念を抱いたのは、国定教科書の販売を手掛ける熊谷久栄堂と吉岡宝文館である。

この状況を書店業界全体の問題として立ちあがったのが、神戸宝文館を任されていた柏佐一郎だ。当時、熊谷久栄堂や神戸宝文館の教科書が、どのようなルートで小学校に販売されていたか明らかでないが、県内すべての小学校への直接販売は不可能だったろう。

柏に、組合創設が必要なことは理解できても、県内とはいえ遠隔地にある店舗の割引販売を防ぐ手立てに具体的な知恵があったわけではない。柏が頼りにしたのは、吉岡宝文館に勤めたあと独立して盛文館を開業、西部地域を販路に収めて大取次店を経営する岸本栄七だった。書籍を卸す取次店もまた、定価販売を壊す動きにブレーキをかける立場にある。岸本には、組合というものの実態と運営のみならず地方にある書店の状況にも詳しかっただろう。割引販売を阻止するためには、まず書店業界をまとめることと教えられた柏は明治三九年七月、明石の衛濤館で、「国定教科書販売等の件」を議題に、初めての会合を開く。

集まったのは熊谷幸介のほか、岸本栄七とその取引先である明石、山崎、洲本、姫路、篠山、柏原の書店主ら合せて十名だった。

会合では業界発展のため組合の必要性を確認、組織など柏に一任して設立へ動きだす。

神戸元町商店街 楽市楽座情報 2月

◇元町1番街商店街振興組合　TEL331−7850

水曜市　2月20日(水)11時〜19時

◇元町6丁目商店街振興組合　TEL367−5477

モトロク市　2月9日(土)11時〜17時
(毎月第2土曜日開催)

◇風月堂ホール(有料)　TEL321−5555

もとまち寄席「恋雑亭」　2月10日(日)
林家 染吉　桂 三ノ助　桂 文三
桂 福楽　笑福亭 恭瓶　桂 千朝
前売券は1月11日より風月堂で発売

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料)　TEL361−4523

2月7日(木)〜2月12日(火)
第16回須磨・火曜スケッチの会(水彩)
2月14日(木)〜2月19日(火)
一期一絵の会(KSC15期)15回絵画展(油彩・水彩)
2月21日(木)〜2月26日(火)
第22回 游遊会水彩画展(水彩)
2月28日(木)〜3月5日(火)甲友会(写真・洋画展)

◇元町映画館(有料)　TEL366−2636

2月2日(土)〜2月8日(金)
ハル・ハートリー監督『ロング・アイランド・トリロジー』
2月2日(土)〜2月15日(金)
『世界で一番ゴッホを描いた男』・『赤い雪』
『パスキア、10代最後のとき』
2月9日(土)〜2月15日(金)
『MOOSIC LAB 2018』
2月9日(土)〜2月22日(金)
『世界が愛した料理人』・『ノーザン・ソウル』
2月16日(土)〜2月22日(金)『国家主義の誘惑』
『人情噺の福団治』・『次世代映画ショーケース』
2月23日(土)〜3月1日(金)
『ルートヴィヒに恋して』
2月23日(土)〜3月8日(金)『21世紀の女の子』
『共犯者たち』・『スパイネーション/自白』
2月23日(土)〜3月15日(金)
『バーニング 劇場版』

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は1月11日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海三丁目協和会)奈良山喬一、(神戸市住宅都市局)田中淳也、(兵庫県信用組合)田中祥平・宮本善弘、(広島銀行)村中浩一郎、(三鈴マシナリー㈱)稲岡千碩、(大一産業)松井裕香、(㈱神明)川邊ななみ、(神明倉庫)米澤彩香、(㈱イーエスプランニング)大澤優希・竹中千恵、(佐野運輸)志賀俊之・高寺宏聡、(新光明飾㈱)中川俊・西村友博・藤田直之・篠原博明・大森貴美子、(佐田野不動産㈱)佐田野宏之以上、19名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。

編集後記

まち発祥の場所を証明する地名として、「元町」は、江戸期、東京の江東区・文京区や横浜市などに生まれ、「元町」を地名にもつ自治体は北海道の札幌市などから鹿児島県の串木野市まで全国に広がる。兵庫県では赤穂・豊岡・姫路の三市に「元町」はある。が、神戸市にはない。明治五年五月、県知事(県令)神田孝平は、大手町・濱町・札場町・松屋町・中町・西町・城下町・東本町・西本町・八幡町をまとめてつけた名称は「元町通」。町名をまとめる策として「通」を使い、各丁の区画を一〜六までの数字で表現した。発展する中心街を「通」と「数字」で、地域を簡潔に表現した。神田孝平の、斬新なアイデアであったにちがいない。

海という名の本屋が消えた（63）

平野義昌

川崎・三菱大争議と賀川豊彦（その2）

1921（大正10）年7月10日の3万5千人大デモ行進を露天商人で詩人・林喜芳（1908～1994年）が回想している。林の住まいは川崎造船所のそば、住民の多くが職工だったし、母親はお茶くみで勤務していた。

〈三菱・川崎大争議の大示威行進は何回も神戸市中に繰り広げられた。延々五キロとも十キロとも言われたその行列への参加者は三万。猛暑の炎天下を「死すまで戦え」「興廃はこの一挙にあり」と筆太に書かれた大幟を先頭に、カンカン帽に白麻詰襟のリーダー格、つづいて菜ッ葉服に板裏草履の職工たちが石油罐をガンガラガンと叩きながら「起て労働者ふるい起で……」と友愛会の労働歌を高らかに歌いつつ、これにつづいた。〉註1

林は、デモ道筋の商店が氷や飲み物を提供したことを「真実願っての励まし」、と書く。新開地は庶民のまち、薄利多売が信条で、労働者たちが日常の客だ。彼らの懐具合は商売に直結する。しかし、警察は「暴徒に与する」行為であると、声援さえも咎めた。

デモは整然のうちに終わった。労働者の強固な団結と意思は経営側にとって大きな脅威になった。もうひとつ、賀川豊彦が提唱した労働者による工場管理＝自主管理は会社を含め権力側には受け入れられないものだった。

〈……三菱は十二日から十日間、川崎は十四日から十日間の休業を決定したのである。それだけでなく、十二日には軍機保護を名として数十名の憲兵が派遣された。県当局もまた周章し、治安維持を名として示威運動を禁止し集会を制限しただけでなく、陸海軍の出兵を要求し、十四日には、姫路師団の一箇大隊が神戸にのりこんできた。〉註2

会社側は組合指導者の首を切り、警察は彼らを検挙した。

18日、賀川は「工場管理」について会社側に誤解があると、文書を発表した。要約する。

○工場管理は暴力による工場占領ではなく、労働者の合意的決意による建設的企図である

○ストライキやサボタージュは容易なことだが、産業を萎縮させ、労働者をも枯衰させる

○それゆえ、最良策として集団的労働管理を宣言した

〈工場管理は会社を思うたからである。／工場管理は国家を思うたからである。／工場管理は社会の安寧を思うたからである。／最後に工場管理は労働者そのものの生活を思うたからである。〉註3

賀川は、会社・国家・社会を愛するがゆえの建設的提案にもかかわらず会社は門を閉じた、と批判した。そのうえで、労働者は暴力を否定し工場再開を待つ、と手を差し伸べた。さらに、川崎労働者は工場管理を長く続けるのではない、松方社長の回答あるまで、もしくは彼の帰国まで、と訴えた。2年前の争議で8時間労働を受け入れた松方幸次郎に信頼と期待を込めた（三菱はまだ9時間労働）。

7.10デモの後、長引く争議に労働者はますます困窮した。争議団は行商隊を組織し、各地で石鹸やタオルなど日用雑貨を販売して生活援助・活動資金にした。これは争議団の広報活動でもある。また、相撲大会、運動会、演奏会などのリクリエーション活動や演説会で結束を固めた。

17日昼、大倉山公園で運動会を終えた労働者約100名が神戸港に集まり、イギリスの哲学者・平和運動家、バートランド・ラッセル（1872～1970年）を出迎えた。補註

18日夜、友愛会演説会にラッセルが立った。賀川の通訳で、「現在の予は健康勝れず、多くを語る能わぬが唯諸君の努力に依りその目的を貫徹されんことを祈る」と激励した。註3

25日、川崎造船所は労働者に就業を促す一方で休業手当支給を打ち切った。争議団はストライキを決めるが、労働者たちは闘争と会社・警察の圧力に疲れ、少しずつ工場に戻っていた。

争議団はデモ禁止に対抗して集団神社参拝を計画した。28日7時、長田神社に集合、参拝。幹部が祈願文を朗読した。

「天地神明に誓って、神戸三万の労働者は申す。（中略）我等は圧制横暴迫害に堪え、あくまで産業の自由と人格のために天地大霊の庇護を乞い願う」註4

国歌斉唱、「天皇陛下万歳」「労働者万歳」の後、賀川を先頭に6千名が正門から大開通を、久留先頭の2千名は山手の道路を進んだ。新開地で賀川隊の労働者たちは早足になり声を上げ、南下して川崎造船所に向かおうとした。賀川が行進を制御して東に方向を転じ、神戸駅前から湊川神社正門に到着した。神前で祈願文を読み、万歳三唱して、10時解散。この日、造船所に出勤した労働者は6800余名、全体の半数に迫った。

29日、生田神社に川崎造船所の労働者1万3千人が集まり参拝。労働歌、国歌斉唱の後、女性労働者に託された黒髪を神前に供えた。7時半、賀川を先頭に七宮神社（川崎造船所の北西）に向けて出発、鳥居前で警戒中の警官隊と小競り合いになった。行進は元町商店街を抜け、裁判所前を通り神戸駅前から相生町、新開地筋に出て南下した。踏切待ちの労働者一団が警官隊とにらみ合った。そこで事件が起きた。近くの電気局ビルから釘の出た板が落下。労働側は警察の仕業だと思い投石、大乱闘になる。警官隊は孤立した同僚を救おうとサーベルを抜き、双方に負傷者が数十名出て、労働者1名重態。10時に騒動は収束したが、労働者19名が逮捕された。争議団は電気局に抗議。社員が警察と労働者の衝突を見物していて、壊れた窓の支えにしていた木片が落ちたものと判明した。

三菱争議団は同時刻に会下山公園に集まり、長田神社から和田宮（和田岬三菱造船所の北）、湊川神社に参拝。当初500～600名だったが、途中次第に増え5千名に達した。こちらも湊川神社前で警官隊と衝突し、負傷者が出た。

同日警察は争議団に、屋外での集団行動厳禁、神社参拝は10名以内、屋内の演説会のみ許可、と通告した。争議団は警察の参拝制限に対し、全員に通達困難と従わず、30日の和田宮、小野八幡神社（東遊園地から道路を挟んで東）参拝を決議した。

同日18時、警察は争議団幹部会議中に踏み込み、賀川他175名を治安警察法違反・騒擾罪で逮捕した。

30日、争議団は予定通り参拝、警察隊と衝突、またも流血の事態となった。

31日、友愛会鈴木会長が来神、幹部会を再編し、争議続行を確認した。演説会や行商を続けたが、労働者の生活は逼迫し、会社側の切り崩しが進んだ。幹部大量逮捕は致命的打撃だった。

8月4日、7.29参拝で重傷を負った川崎職工・常峰俊一郎死亡。6日葬儀。

8月初め、今井嘉幸弁護士（神戸市中山手通に居住、大阪で事務所開設）が労使間の交渉役になった。今井は普通選挙運動で賀川と親しく友愛会の顧問であり、三菱造船所所長と同郷で昵懇の間柄、且つ三菱商事の顧問弁護士も勤めていた。

争議団の提出した条件は、組合加入の自由、工場委員制度、8時間労働、賃上げ、解雇・退職手当など。会社側は承諾の内意を伝えた。

〈……だが、これが一部の新聞にスッパ抜かれ、会社側が譲歩したごとくに発表されたため、会社側は体面にとらわれて態度を一変、これを破棄してしまった。〉註5

県知事は労働者に就業を促して結束を崩そうとした。市長は上記条件の実施時期を曖昧にし、賃上げ・手当を抹殺した調停案を出した。今度は争議団がこれを「屈辱的」と拒否し、交渉は決裂した。骨抜き案を飲むより、ストを解除し無条件就業を決定した。9日、争議団は「罷工団全員の就業」を宣言。10日、川崎造船所工場に入った労働者は1万4千5百人。11日、三菱造船所は7千6百人を超えた。10日夜、賀川は釈放されたが、既に闘争の幕は降りていた。12日、争議団は争議最終宣言を出した。

〈吾等は武運拙なく遂に惨敗した。〉註6

註1　林喜芳『わいらの新開地』　冬鵲房　1981年
註2　隅谷三喜男『賀川豊彦』　岩波書店同時代ライブラリー　1995年
註3　『神戸新聞』1921.7.19
註4　武田芳一　『熱い港――大正十年・川崎三菱大争議』　太陽出版　1979年
註5　松岡文平（『今井嘉幸自叙伝「五十年の夢」神戸学術出版、1977年』）解説より。
註6　『復刻版 三菱、川崎労働争議巌末』社会運動資料刊行会　1977年
補註　ラッセルは中国の大学で講義の後、アメリカに向かう途中来日。改造社・山本実彦が招聘した。ラッセルは雑誌『改造』に寄稿していたし、賀川も常連執筆者。賀川の『死線を越えて』売り上げが招聘の資金になった。ラッセルの推薦により翌年のアインシュタイン招聘につながる。

※電車　※警戒　※対抗　※以上
大衝突の後（上）争議団相生町通過（下）

7.29神社参拝行進（相生町付近）『神戸新聞』1921.7.30より
＊復刻版、新聞の原文は旧字・旧かな。

出来事ファイル（№19－2）

■「近代港湾荷役の地 弁天浜・国産波止場」出版

神戸開港150周年を記念して12月20日、波止場町まちづくり協議会は［KOBE近代港湾荷役の地 弁天浜・国産波止場］を刊行した。「幕末から維新へ」の時代をスタートに「神戸港／あの日あの時」まで、時代別の11章に分け、写真を中心に説明文を添え神戸港荷役150年、誰にも港の姿が理解できるような内容に。編集・執筆TEN×TEN神戸元町代表の村上和子

はしけで子育て。（79頁より）

■コウベハッピーホリデイズマーケット2018

ルミナリエ開催中の土日に当る12月8日・9日・15日・16日の4日間、16時～20時30分まで、「コウベハッピーホリデイズマーケット2018」が神戸大丸店北側の鋪道で開催された。出店者は元町商店街6丁目亀井堂のほか、神戸ワイン，英国屋、神戸北野珈琲など10店舗。主催は三宮中央通街づくり協議会内のコウベハッピーホリデイズマーケット2018。

■ハートミュージアム報告書

2005年2月から元町商店街を会場に毎年開かれるようになった障害者のアートイベント「もとまちハートミュージアム」。2018年6月開催の第14回に至るまでの足取りを収録した報告書が、同2017実行委員会により発刊された。6年に1度の開催でスタートしたが、会場の元町移転を機に実行委員会が発足、毎年行われるようになった。今では元町商店街でおなじみの定例イベントに。

涌嶋克己（WAKKUN）と絵を描こう（9頁より）

■御存知？ 津波防災マップ

乙仲通の電柱に「津波避難・高架を越えて山側へ」大きな矢印を添えた案内が表示されているの、御存知ですか。神戸市危機管理室が平成25年に設置したもので、津波発生時、神戸のまちを訪れた人に逃げる方角を誘導するため表示されたもの。山側へ逃げるのが安全と分かっても、その方角が分からなくては、と掲示された。日ごろから、高台への逃げ道確認を！

■商店街で赤切符

11月28日(水)は、元町商店街全丁合同の自転車乗り入れ禁止キャンペーン実施日。自転車乗り入れ禁止ののぼりを手に各丁委員らが6丁目商店街から1番街へ向かうなか、反対方向から悠々と自転車に乗って西へ向かってきた女性。キャンペーンに付き添っていた生田警察署の係官に停車を命じられ、赤切符を切られました。元町商店街では自転車乗りいれ禁止です！

■MADE IN ナンバーワン？

2月22日(土)、恒例の兵庫県統計グラフコンクール優秀作品の展示発表会が元町商店街3丁目でありました。第2部特選に選ばれた神戸市立樫野台小学校4年の伊達陽菜さんが選んだテーマは「MADE IN ワールド」。家にある商品の原産地を調べると、中国産が工業品、衣服、おもちゃの3分野でトップ、日本製は日用品、文房具の2分野でした。やはり中国製品が多いんですね。

■北野『雑居地』ものがたり

編集委員会の委員長をつとめられた岩田隆義さんから「北野『雑居地』ものがたり」をいただいた。ハンター邸の辺りにイノシシが頻繁に出没！外国倶楽部の場所にあったトアホテルの設備は最高、が、料理が悪いと、宿泊の外国人は料理のうまいオリエンタルホテルへ車でおでかけなど、ニヤッとするような小話まで拾い集めた北野らしい明るくて楽しい北野案内書。

神戸北野美術館（旧アメリカ領事館官舎・10頁より）

■花隈・原付無料駐車場

花隈城跡の下を東西に走る中央幹線道路。そこに原付バイク専用の無料駐輪場が開設された。これまで周辺にバイク専用の置き場がなく、自転車置き場の端で、大きな車が小さくなって駐輪する姿をよく目にした。この1か所でバイクの駐輪場解決とは言いがたいが、周辺の自転車駐輪場では肩の荷を下ろしたような気分だろう。一方、専用休息所を得たバイクは、両手をのばして楽しそう。

■神戸駅東地区クリーン作戦

1月9日（水）12時。平成31年初めての神戸駅東地区クリーン作戦が実施されました。ネッツトヨタ兵庫㈱（19名）、エスタシオン・デ・神戸（20名）、元町通7丁目（2名）の3班に分かれ、ビニール袋とごみ拾いよう金具を手に、総勢41名で実施しました。

ネッツトヨタ兵庫㈱＋元町通7丁目チーム